（２）国語教育研究会（中）

会　長　岸本　教恵（後川中）
副会長　大塚　明人（蕨岡中）
事務局　山﨑　美樹（西土佐中）

１．研究主題

「言葉を大切にし、豊かな読みと表現の力を育てる。」

２．研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和元年 5 月　8 日（水）	四万十市教育研究大会組織総会 ・役員選出　・研究主題設定　・年間計画	中村南 小学校	18 名参加
7 月 31 日（水）	第１回学習会 〇研究大会に向けての単元構想 〇助言　　福岡　征則指導主事（西部教育事務所） 〇研究大会に向けて	四万十市 中央公民館	18 名参加
10 月 25 日（月）	第２回学習会（指導案検討会） 〇各校の実践について 〇指導案検討 提案者　谷﨑　美佳先生　　（大川筋中学校） 〇助言　　福岡　征則指導主事（西部教育事務所）	四万十市 中央公民館	16 名参加
11 月 13 日（水）	研究大会 〇研究授業 教材名　作られた「物語」を超えて（３年） 指導者　谷﨑　美佳先生（大川筋中学校） 〇研究協議 〇助言　　福岡　征則指導主事（西部教育事務所） 〇今年度の振り返りと来年度に向けて	大川筋 中学校	15 名参加

３．研究の詳細

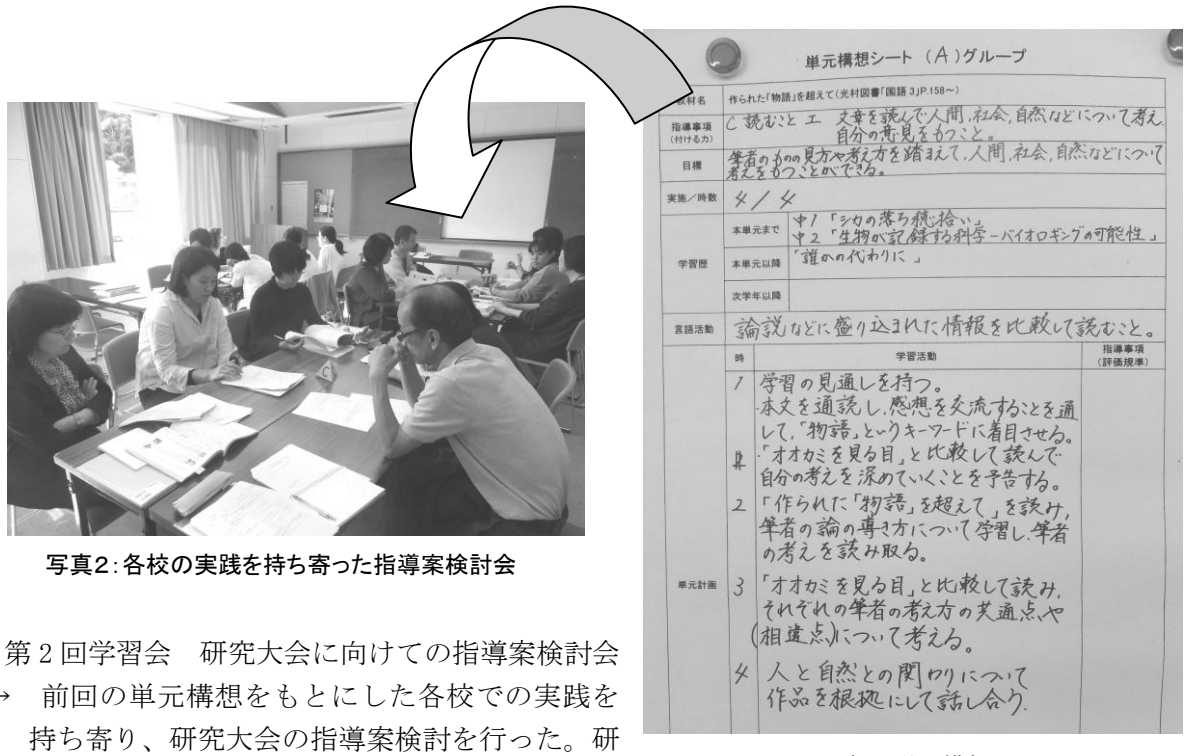
今年度の研究のポイントは、研究大会の授業者だけではなく、全会員が主体的に教材研究や授業実践を行い、知恵を出し合って一つの単元を作り上げる過程にある。

（１）　研究大会の授業者・単元等の決定（５～６月）

→　組織総会の分科会において、輪番をもとに授業者を決定。授業者の意向を確認し、学年や単元等を決め、後日会員へ周知した。第 1 回学習会までに各会員が教材を確認し、教材研究や単元構想を進める準備をした。

（２）　第 1 回学習会　研究大会に向けての単元構想

→　単元構想シートを用いて該当単元の授業をグループごとに構想した（写真１）。
これを共有し、各校で実践したのち、10 月の指導案検討会に持ち寄ることとした。



単元構想シート（A）グループ

教材名	作られた「物語」を超えて（光村図書「国語 3」P.158～）	
指導事項（付ける力）	℃ 読むこと エ 文章を読んで人間，社会，自然などについて考え，自分の意見をもつこと。	
目標	筆者のものの見方や考え方を踏まえて，人間，社会，自然などについて考えをもつことができる。	
実施／時数	4／4	
学習歴	本単元まで	中1「シカの落ち穂拾い」 中2「生物が記録する科学－バイオロギングの可能性」
	本単元以降	「誰かの代わりに」
	次学年以降	
言語活動	論説などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。	
単元計画	時	学習活動 / 指導事項（評価規準）
	1	学習の見通しを持つ。 ・本文を通読し，感想を交流することを通して，「物語」というキーワードに着目させる。 ・「オオカミを見る目」と比較して読んで自分の考えを深めていくことを予告する。
	2	「作られた「物語」を超えて」を読み，筆者の論の進め方について学習し，筆者の考えを読み取る。
	3	「オオカミを見る目」と比較して読み，それぞれの筆者の考え方の共通点や相違点について考える。
	4	人と自然との関わりについて作品を根拠にして話し合う。

写真2：各校の実践を持ち寄った指導案検討会

写真1：単元構想シート

（3）　第２回学習会　研究大会に向けての指導案検討会

→　前回の単元構想をもとにした各校での実践を持ち寄り、研究大会の指導案検討を行った。研究大会の授業者は少しずつ各グループに入り、意見を交わしながら研究授業の構想を固めた。（写真２）

①　グループ協議より

・ゴールとなる言語活動を軸とした単元構想が各校で意識されている。
・複数の資料から、必要なものを選択する力を鍛える点が重視されている。
・生徒自身が「問い」を立てることの意義と、その難しさについて。

②　福岡指導主事より

・論説文の「読み」から批評文として「表現する」という単元構想は、研究の主題に合致。
・批判的に読む力をつけるために、筆者の立場を押さえつつ、それでいいのかという視点を持たせることが重要。

（4）　研究大会　研究授業

→　授業者以外の会員が、同じ単元で授業実践を行った上で研究授業を参観した。

①　授業者より

・論説文の教材にこれほど深く取り組んだことがなかったが、指導案検討等を通して、たくさん材料がある中で授業を組み立てることができた。
・全体を通して、子どもたちはいろいろなことを考えており、可能性の広がりが見えた。

②　グループ協議より

・事前準備（学習の流れの可視化／毎時間の成果物／全文シート等）がされており、見通しをもって取り組めていた。（写真４）

写真3：研究授業の様子

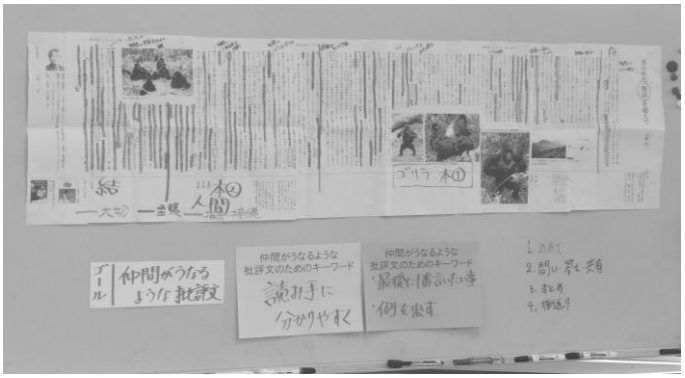


写真4：全文シート／成果物等

写真5：生徒による考えの共有

・問いを絞り事前に与えることで、考えやすく、また個人思考の時間が確保されていた。
・自分の考えが根拠をもとに共有できていたが、共有の仕方にひと工夫加えてもよいのでは。（写真５）
・まとめが生徒の言葉でできるようにしたい。めあてと問いのつながりや、振り返りに書かせたいことなどをより整理できるとよい。
・全学年を通して指導することにより、資質・能力をつなげることが大切。

③　福岡指導主事より
・子どもの問いから出発しているところが面白い。
・子どもたちの目の付けどころがよく、日ごろの指導の成果が表れていた。
・子どもたち同士の話し合いが自分の考えの発表のみになっていたので、もっと意見をつないでいければよかった。子どもだけで難しい場合は教師が介入することも大事。（写真５）
・文の種類や形態を意識して指導することが大事。読むことで文種を意識し、書くことにつなげてほしい。
・「理解」から「表現」へと大きな視点で考え、単元をつくっていくことが重要。
・他教科や学年を超えて教材をとらえていく研究も今後必要になってくる。
・一人では考えにくいので、四万十市全体で共有しながら学びあう機会は貴重。学校間で連携し、共同研究をすることも大事。

４．今年度の成果と来年度に向けて

（１）成果
・各校で同一教材を事前に実践し、指導案検討や研究大会の授業に参加したことで、より深く研究することができた。
・比較的苦手意識を持つ教員が多い説明文の授業に挑戦されたことで、会員の学びが深まった。
・単元構想とゴールを意識することで目指すものが明確になり、生徒の考えを深めることができた。

（２）来年度に向けて
・今年度と同様のやり方で扱う指導事項を変えてやったら勉強になる。（事前に各校で実践するには授業の入替等が必要になるので、年間計画を立てる早い段階で考える必要がある。）
・新学指の内容をどうとらえていけばいいのかを共有したい。
・県内の優れた実践をされている先生を招いての講話や実践交流も、繋がりを作る意味で有意義。

※輪番：来年度の授業はＣブロック（大用、中村、蕨岡、西土佐）。※西土佐中は今年度事務局校。